

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500431		
法人名	社会福祉法人 宮田福祉会		
事業所名	照陽園グループホーム		
所在地	福岡県宮若市磯光2159-1		
自己評価作成日	令和2年9月14日	評価結果確定日	令和2年10月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市古知1丁目6番48号
訪問調査日	令和2年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々にとって、心地よい環境づくりと日常生活の中で、食事はおいしく食べられているか、よく眠れているか、排泄がちゃんとできているか、を基本に職員は健康管理をしている。健康であることにより園での生活がおだやかに、楽しく暮らせることを念頭に、その人らしい生活援助が出来ることを目標としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

永年、地域に根差した介護サービスを提供している社会福祉法人の地域密着型サービスとして、理念の唱和を継続しながら、入居者や家族の思いを重視した介護計画を作成し、月間目標である個別ケアの充実に取り組んでいる。自粛生活の中、窓から外に出られた入居者の思いに寄り添い、大声を出す言動の背後にある感情を理解しながら支援している。又、何時でも往診をお願いできるかかりつけ医の協力で2名の方を看取り、居室での宿泊を支援し、ともに看取った家族からは謝辞を受けている。「もっと支援できたのでは」や「住み慣れた所で穏やかな最期で良かった」など、看取りを振り返っている。家族に玄関のガラス越しの面会をお願いしている現状から、家族の意見を運営に反映したいと毎月の暮らしぶりを生活状況報告書で詳細に報告したり、遠方の家族には写真を送付している。そして、コミュニティバスや近隣の民間バスも廃線となり、ホームへの来訪や近隣の方々への買い物等も危ぶまれる現在、法人として地域貢献の道を模索している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **Aホール/照陽園グループホーム**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に大きく掲示し、毎朝勤務者で唱和することで、入居者の方々とともに生きていこうと実践している。職員は笑顔をやさず寄り添うことで安心して過ごしてもらえるよう支援している。	玄関や事務所、各ユニットに掲示した理念の唱和が継続している。理念を具現化すべく、月毎に目標を掲げてその成果を話し合っている。今月は「個別対応を充実させる」が事務所前に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年地域での行事・草刈及び溝掃除に参加。また餅つきや地域の山笠・みこし・盆踊りなどをつづけて交流を深めている。地域の保育園や小学校とも交流し、楽しいひと時を過ごすことが出来た。しかし、コロナの影響で今年度は中止となる。	コロナ禍の影響で、法人で協賛していたコミュニティバスだけでなく、10月からは近隣の民間バスも廃線となり、ホームへの来訪や近隣の方々の買い物等も危ぶまれている。地域に根差した介護サービスを提供している社会福祉法人として地域貢献の道を模索している。	地域の現状を関係機関との情報交換や連携で、入居者が家族や地域の方々との関係を継続できる支援を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	餅つき等の園内行事に地域の方々と一緒に作業を行うことで、認知症への理解を深めていただいている。また法人で宮若市無料バスに協賛。地域・家族の交通手段として活用していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月おきに開催。入居者の方々の状況・活動報告・事業計画及び報告・処遇困難事例の検討・外部評価の結果・改善項目等を話し合っている。又、年2回は法人内地域密着型通所介護の会議も合同で行っている。	9月はホームの取り組みを書面で報告したが、7月は家族代表、民生委員や知見者などの参加で開催し、会議録を共用空間で公表している。会議では、2名の方の看取りやコロナ禍に端を発して離園行動に至った方の対応について報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーである地域包括支援センターの職員を通じて、市役所とも協力関係を築くよう取り組んでいる。	参加している地域同業者協議会を通じて連携し、市担当者とは居室情報を提供するなど、日頃から情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒防止として危険物の除去、ベットからの転倒防止としてベットの高さ調節・トイレに行きやすい位置に設置するなど身体拘束防止に努めている。	法人の身体拘束虐待防止委員会に職員が参加し、会議内容を各ユニットで回覧し、言葉による拘束について周知徹底に努めている。コロナ禍の中の禁煙が離園行動に至った入居者もあったが、心情を察した気配りや声かけで禁煙を達成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年は法人全体で外部より講師を招き、身体拘束及び虐待について勉強をした。また月に1回身体拘束・虐待防止委員会の会議を開き、再確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業について勉強会を実施した。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はないが、随時活用を支援するために資料を整備している。家族が制度を活用されている入居者もあり、今後の活用を検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに十分な説明を行い、ご理解・納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見が常に聞けるように玄関に意見箱を設置。 また行事等の際、ご家族と懇談しながら、意見を伺い運営に反映している。	入居者の映像権に配慮しながら、年2回発行の法人だよりでホームの暮らしぶりを紹介している。変化等は電話で随時連絡しているが、コロナ禍以来整備した生活状況報告書で詳細に報告し、意見の表出を促している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長が年2回職員と面談、または管理者が職員からの意見を聞き、運営に反映している。	法人の事業計画が一覧表で提示され、毎月運営会議やホームの定例会議が開催されている。今年4月新規入職に伴い、ユニット内の業務を見直したり、ユニットリーダーの負担を軽減するために、役割を分担している。念願のシャワー浴の特殊浴槽が設置されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成の際、希望休を聞き休める工夫をしている。資格取得時の料金の立替・資格取得後の昇給もある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	求人募集については、特に採用基準はない。 新規職員については、職場の環境整備・介護知識を得る為の指導を行い、いきいきと働けるように配慮している。 毎月事業所内での勉強会を行い、資質向上に努めている。	30代～60代の職員が勤務し、4月に入職した職員もあるが、永年勤務している職員が多く、開所以来勤務している職員は働きやすい職場だと話している。ユニット間での異動があり、中には貼り絵や折り紙で能力を發揮する職員もあり、個性や能力が活かせるように支援している。法人内での研修が毎月開催され、資格取得で昇給するシステムとなっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全職員対象に年度初め、倫理規定のもと人権教育を行っている。	年度初めに法人理事長が倫理規定に基づいて人権に関する講和を行っている。昨年までは外部講師を招聘した研修も実施してきたが、今年度は未定となっている。コロナ禍の中、理事長は介護職としての意識を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修計画の下、勤務時間終了後、外部講師による研修を行う。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	宮若市グループホーム協議会で毎月一回の勉強会で交流を図り、情報交換やサービスの向上に努めていたが、コロナの影響で現在できていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居一ヶ月は、環境の変化で戸惑い・不安が生じる為、常に職員が寄り添い・信頼関係を築けるよう努めている。入居前の処遇会議・入居2週間後の会議のもと、職員の介護ケアの統一を図っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に限らず、来園時等には家族とのコミュニケーションをとっている。 又状況の変化が見られた場合は、電話等で連絡を取り関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の処遇会議で検討し、どのようなサービスが必要か見極めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々の知恵をおかりしながら、毎週日曜日手作りおやつ等、ともに暮らしている関係を築く努力をしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	例年行っている家族交流会や一緒に参加できる行事(忘年会・餅つき等)を通じ、ともに支えあっていく関係を築くよう、努力している。 しかし、今年度はコロナですべて行事が中止になっている為、月に1回日ごろの様子や要望・写真を送付している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	火渡り・盆踊り等の地域行事に参加できるよう支援している。 しかし、コロナで行事も中止となっている。	馴染みの方との交流機会ともなっていた法人内での地区毎に参加を呼びかけ実施していた介護保険等の勉強会や昼食会は、昨今の状況で中断している。玄関のガラス越しの面会や遠方の家族に写真を送付するなどの工夫で、家族との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味・気の合った人がお互い支えあっていけるよう支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時は、必ず声かけを行い、必要な時はいつでも相談してくださいと支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に状態観察を行いながら、今まで通りの生活がこれまでの生活と変わりなく過ごせるよう努め、又訴えの出来ない方へ無理強いせず希望・意向の把握に努めている。	自粛生活の中、窓から外に出られた入居者の「牢屋に入れられている」、「閉じ込められている」との思いに寄り添い、大声を出す行動言動の背後にある、「かまってほしい」との感情を理解しながら支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居時の面談でその人の生活暦等を聞き、サービス提供の資料にしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の能力・心身状況を把握し、ケアプランの立案・見直しをしながら状況の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	処遇会議には全職員が出席し、それぞれが意見を出しあい、プランを作成・見直しにつないでいる。	入居者や家族の意向を重視した介護計画を作成し、各入居者の特徴を共有しながら、月間目標である個別ケアの充実に取り組んでいる。入居後排便コントロールが円滑になり、階段の昇降訓練を次の短期目標に挙げている入居者もある。	整備している入居者毎の特徴や個別ケアの一覧表を介護計画作成や見直しの資料とし、その推移をモニタリングすることで、より現状に即した介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護日誌や個人ノートにより職員間で情報を共有、実践やケアプランの見直しに活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の宿泊室はないが、看取り等の際は、入居者の部屋に泊まれるよう援助。 コロナ禍であったが、看取りで2日間泊まれた。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々とのつながりを大切にし、安全に暮らせるよう努力している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診のほか、本人・家族の希望を聞きながら、適切な医療受診が出来るよう支援している。	常勤の看護職員が勤務する中、協力医療機関からの定期的な往診を受け、状態の変化は随時連絡し、指示を仰いでいる。訪問歯科受診も支援しているが、治療が必要な場合は、家族に連絡し了解を得ている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康観察の中で、本人の健康状態を把握し異常が見られたら主治医の指導のもと、受診・看護が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人情報との関係で身体状況をHPに聞くことが難しく、家族からの情報を聞きながら、MSWと連携をとっている。 また希望者だけが、職員が病状説明を聞いてもいいと同意を得た入居者には直接病状説明を受けられる体制を整えた。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末ケアについて説明を行っている。重度化された入居者については、再度家族へ説明。 園での終末ケアの希望および同意をいただいている。今年度に入り2名行った。	2名の方を、何時でも往診をお願いできるかかりつけ医の協力で看取っている。居室での宿泊を支援しともに看取った家族からは謝辞を受けている。勤務外で駆けつける職員もあり、「もっと支援できたのでは」や「住み慣れた所で穏やかな最期で良かった」など、職員たちは長年生活を支援した方々の看取りを振り返っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導のもと、年1回法人全体で、心肺蘇生・AEDの使い方の研修を行っている。グループホームにも現在AEDを設置している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災による避難訓練(昼夜設定)のほか地震による避難訓練も実施。風水害については、災害マップで危険箇所を把握している。	本年度の避難訓練は、消防署に対応を相談中で、前年度の地震想定での避難訓練ではまず出口の確保をとの指導があった。法人として3日分の食料を備蓄し、自治会に避難所としての活用を提案している。先月の台風襲来時は、職員の出退勤にも配慮している。	今後も異常気象が想定されるため、入居者に関する持ち出し書面の検討をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護について、入居契約書や職員契約書に明記。 管理者は入居者・家族に個人情報の利用目的(ブログ掲載等)を説明し、同意を得ている。言葉遣いや尊敬の気持ちを常に持つことを確認している。	「〇〇さん」と丁寧な声かけを実践しているが、現役時の職業に配慮し、「先生」と呼称する入居者もある。理念に掲げた「尊厳のある生活の支援」に努め、落ち着いた生活が送れるようになった入居者もある。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を通じて常に本人の思い・希望を聞きながら支援を行っている。 また訴えることが出来ない入居者の表情・しぐさ等を把握することで支援をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強要せずに、一人ひとりの状況・状態に合わせたペースで支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、整容等支援しお化粧やおしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士がカロリー計算をした食事を提供。入居者の状況にあわせ食事形態を提供。(ソフト食等)体調に合わせて食べたいものを別に提供している。	食事の外注先を変え、食形はあるが舌でつぶれるソフト食の導入で、入居者に満足感を提供し、職員の見守りや介助で其々のペースで食事をしている。毎週日曜日の手作りおやつではタコ焼き屋を生業としていた入居者が腕を振るったり、次回は庭で掘った芋を使ったおやつ作りの予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の指導のもと行っている。定期的に体重測定も実施。食事・水分摂取量も記録している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っている。また協力歯科の指導も受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、誘導を行い支援を行っている。	居室にトイレが設置されているが、ウォシュレット付きの便座を持参されたり、排泄が自立している入居者もある。時間やしぐさに応じた声かけでトイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をもとに嘱託医や管理栄養士と相談しながら対応している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望時間に添えるよう入浴を行っている。各ユニットの入浴日を交互にし、毎日の入浴を可能にしている。重度化に伴い、シャワー浴の特殊浴槽を設置した。	片方のユニットにシャワー浴の特殊浴槽が設置され、現在4名の入居者が利用し、職員の腰痛が改善している。週3回の入浴を個浴槽との併用で支援しているが、管理者は終末期でもシャワー浴ができると喜んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣・身体状況を常に把握し、休息等安心して暮らせるよう支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診や嘱託医の指導のもと行っている。又状態変化が見られる場合は、嘱託医へ連絡し服薬管理を行っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽度の家事作業(洗濯物たたみ・掃除・湯のみ洗い)や散歩等の支援を行い、日常生活に張り合いをもっていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿った支援を心がけているが、家族の協力は中々得られない。	新型コロナウイルス感染が収束の折は、サイダーやコーヒーを買いに行きたい、近隣の〇〇に行きたいとの希望を叶えたいと管理者は話している。中には自分でタクシーで買い物に行きたいとの希望もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭所持はお断わりしているが、入居者の希望に応じて所持している。外出時は支払等を自分でしてもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置。又園の電話を利用していつでも電話できるようにしている。入居者の中には、携帯で連絡している方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭の花壇に季節の花や野菜を植え、居間から見えるように窓際にはソファ・テレビの前にもソファを設置。季節の野菜を一緒に植えたり、ゆっくりテレビを観賞も出来る。床材にクッション材を使用し、音が響かないよう配慮している。	今年初めて花壇に入居者と芋を植え、明日芋ほりを予定している。玄関の左右に開所したユニットの共用空間は、空調が管理され、窓の障子戸が明るく、厨房前にテーブルやイス、中央に間仕切りが設けられてテレビやソファが設置されている。壁には貼り絵や書道作品が掲示され、階段の昇降を訓練する機器を設置したユニットもあり、入居者は其々の定位置で寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い共有空間な為、居場所づくりは出来ている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンス等により、安心して過ごせるよう配慮している。	職員が作った花飾りのついた名札が居室の引き戸の横の壁を飾り、居空間違いを防止している。窓に障子戸がある明るく広い居室は、介助員によって清掃が行われ、担当職員が整理整頓するなど、居心地良い居室づくりを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に一人ひとりの表札・文字の大きなカレンダー・時計など環境整備に心がけている。		